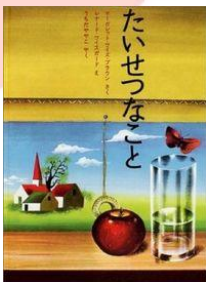




『ほしのおうじさま』

原作/アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ 文/ルイーズ・グレッグ 絵/サラ・マッシーニ 訳/福本友美子 (主婦の友社)

名作『星の王子さま』をモチーフに、イギリスの詩人と画家のコンビが生み出した新しい絵本。「かくれているものはうつくしいんだよ」めまぐるしく変化する時代だからこそ、子どもに伝えたいメッセージが詰まった1冊です。



『たいせつなこと』

作/マーガレット・ワイス・ブラウン 絵/ルナード・ワイスガード 訳/うちだ ややこ 1949年にアメリカで出版されて以来、読みつかれてきた絵本です。「たいせつなこと」とはなにかを、やさしく詩的な文章で語りかけます。



『ピアノ調律師』

M・B・ゴフスタイン 訳/末森千枝子 (すえもりブックス)

人生で自分の好きなことを仕事にする以上に、幸せなことがあるかい？デビーのおじいさんのルーベンは一世界一のピアノ調律師です。仕事に厳しく、そしてデビーをととても愛している、素晴らしい人です。デビーはそんなおじいさんのような調律師になる決心をしました。



『ともだち』

太田大八(講談社) 大人になったら、なにしているかな「いまは小さなぼくたちだけど、20年後は？」未来を想像するのか、過去を振り返るのか。大人にも子どもにも読んでほしい本



『富士山うたごよみ』

短歌・文/俵万智 絵/U.G. サトー 奇想天外な絵、みずみずしい感性の短歌と文からなる画期的な絵本です。「二十四節気」という古来、中国から伝わってきた暦の順で、不思議なコラボレーションが演じられ、日本文化の美的伝統が感じられます。



『ろうそくいっぽん』

作/市居みか(小峰書店) ろうそくいっぽん、ひをつけて、よるのみちを、いそげいそげ。きょうは、だいじなだいじなひ。リズムカルな文章とほのぼのとしたイラストで描く、読み聞かせにぴったりの絵本。



『空の絵本』

作/長田弘 絵/荒井良二 (講談社) 風うごく 雲ながれる 光みちる 空ひろがる… 詩人・長田弘が生み出した美しいことばの粒。かけがえない一日一日の鮮やかさ。絵本作家・荒井良二がかみしめ、味わって、一枚一枚の絵に描ききった珠玉の一冊。

あと

がき

今回は年度末に向けて、「子どもたちへ贈る本」というテーマで7冊の本をご紹介しました。これらの本はすべて新ひだか町図書館に蔵書がございます。ご興味のある方は直接ご来館いただくか、お近くの学校司書までお問合せ下さい。来年度も学校図書館をどうぞよろしく願います！